

# 大学生の結婚・妊娠・出産・育児に関する意識調査

## —フォーカス・グループ・インタビューによる検討—

松井 剛太 ・ 片岡 元子 ・ 水津 幸恵\* ・ 澤 宜英\*\* ・ 山野邊 亜希\*\*  
(幼児教育) (幼児教育) (お茶の水女子大学・院生) (大学院教育学研究科) (大学院教育学研究科)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

\*112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 お茶の水女子大学

\*\*760-8522 高松市幸町1-1 香川大学大学院教育学研究科

## Recognition and Attitude of University Students about Marriage, Pregnancy, Childbirth, Childcare: Analysis by Focus Group Interviews

Gota Matsui, Motoko Kataoka, Sachie Suizu\*, Yoshihide Sawa\*\*  
and Aki Yamanobe\*\*

*Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522*

*\*Graduate School of Humanities and Sciences, Ochanomizu University, 2-1-1 Otsuka, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8610*

*\*\*Graduate School of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522*

**要 旨** 本研究では、香川県の大学生を対象に結婚・妊娠・出産・育児に関する意識を明らかにすることを目的とした。対象者は41名で「性別」「年齢」「恋人の有無」の3つを比較項として、8グループを構成してフォーカス・グループ・インタビューを実施した。その結果、結婚において、全てのグループが経済的な安定を必要と考えていた。また全ての女性グループにおいて、子育ての際、「自分の親に預けられる環境」が必要と考えていた。

**キーワード** 大学生 結婚・妊娠・出産・育児 フォーカス・グループ・インタビュー

### I. はじめに

我が国では1990年代以降、少子化問題に対して様々な社会的対応がとられてきた。2013年の合計特殊出生率は1.43であり、前年の1.41から微増した。しかし、出生数は過去最低の値を示しており、引き続き実効性の高い対策の検討を要する。内閣府は地域ごとの対策を推進するため、「地域少子化対策強化交付金」の事業を立ち上げ、地域の実情に応じた先駆的な取組みを支援する計画を立てた。これは、国が結婚・妊

娠・出産・育児の一貫した「切れ目ない支援」を行うことを目的としたものであり、地域のニーズに応じた画期的な少子化対策を期待していることがわかる。

本稿は、この問題意識に基づいて香川県の大学生を対象として実施された調査の結果を報告する。

## II. 方法

### 1. フォーカス・グループ・インタビュー調査

香川県の大学生を対象にフォーカス・グループ・インタビュー（以下、FGI）を実施し、結婚・妊娠・出産・育児に対する意識を明らかにする。本調査では、関連する先行調査として、下記の資料を参考にFGIの調査設計や質問内容の検討に役立てた。

- (1) 内閣府「結婚・家族形成に関する調査報告書（2011年）」
- (2) 国立社会保障・人口問題研究所「第14回 出生動向調査 結婚と出産に関する全国調査 独身者調査（2010年）」
- (3) 独立行政法人国立青少年教育振興機構「これから親となる若者の就労観、結婚観、子育て観に関する調査研究（2009年）」

これらの統計資料とFGIの結果を参照しつつ質的な分析を行うことによって、大学生が有する結婚・育児に対する意識を考察する。

表1 FGIのグループの概要

グループの属性	参加者
男子学生・大学1年生・恋人なし	同サークルのメンバー6名。教育学部5名，工学部1名。
男子学生・大学1年生・恋人あり	同サークルのメンバー4名。経済学部2名，工学部1名，教育学部1名。
男子学生・大学4年生・恋人なし	同サークルのメンバー5名。教育学部2名，法学部1名，経済学部1名，工学部1名。
男子学生・大学4年生・恋人あり	同サークルのメンバー3名と同じ学部のメンバー2名の計5名。工学部2名，経済学部2名，法学部1名。
女子学生・大学1年生・恋人なし	同サークルのメンバー6名。全員が教育学部。
女子学生・大学1年生・恋人あり	経済学部3名，教育学部2名の5名。
女子学生・大学4年生・恋人なし	教育学部5名。サークルは、ボランティア系，スポーツ系と様々である。
女子学生・大学4年生・恋人あり	教育学部5名。サークルは、音楽系，スポーツ系など様々である。

### 2. FGIの対象者とグループ構成

FGIの対象者は41名ですべて香川大学生であった。募集は、文書の配布やサークルへの呼びかけを行った。対象者の本音を聞きだすため、普段から交流のあるメンバーでグループを構成するよう考慮した。なお、1グループあたり6名でのインタビューを考えていたが、対象者が6名に満たなかったグループや体調不良で欠席した者がいたため、グループごとに人数の差が生じている。

FGIは、「性別」「年齢」「恋人の有無」の3つを比較項として考え、8グループを構成して実施した。各グループの概要は表1に示す。

インタビューは大学の実験室で実施した。話しやすい雰囲気を作るため、男子学生を対象とした4グループには男性のインタビュアー、女子学生を対象とした4グループには女性のインタビュアーが進行役を務めた。インタビュアーはいずれも大学教員であり、事前にインタビューガイドを作成して、インタビュー項目及び進行の手順について入念に打ち合わせをした。インタビューは開始時からすべてICレコーダーに録音し、分析の基礎資料とした。インタビューの参加者には、インタビュー開始前に口頭で調査内容や公表に関してインフォームドコンセントを行い、了承を得た。

### 3. インタビュー項目

インタビュー項目は、大きく「結婚に関して」「育児に関して」「妊娠・出産に関して」「全体に関して」の4つを柱として構成した（表2）。

インタビュー項目は、まず結婚、育児、妊娠・出産のそれぞれに持っているイメージを項目とした（質問項目①、④、⑦）。結婚、妊娠・出産については、将来経験したいと考えているかを項目に加えた（質問項目②、⑥）。結婚については、先行研究により恋愛や結婚の行動に対して自身の親の影響が報告されているため、質問項目に加えた（質問項目③）。育児については、現在の大学生が性別役割分業に対して、どのような考えを持っているかを引き出すため、父親と母親の役割を尋ねる項目を用意し

表2 インタビュー項目

	質問項目及び補助質問
結婚に関して	① 自分が結婚した姿をイメージしたことはありますか？ <補助質問> ・ いつ、どのようなときにどんな姿をイメージしたか？ ② 将来結婚したいと考えていますか？ <補助質問> ・ どうして結婚したい（結婚したくない）と考えていますか？ ・ 今の段階で結婚を決断するときの条件のようなものはありますか？ ③ あなたの両親の関係が恋愛や結婚に影響を与えていると思いますか？
育児に関して	④ 自分が子育てする姿をイメージしたことはありますか？ <補助質問> ・ いつ、どのようなときにどんな姿をイメージしたか？ ・ そのイメージのなかで周囲に手伝ってくれる人はいましたか？ ⑤ 家庭における父親の役割と母親の役割をどう考えますか？ <補助質問> ・ どうしてそう思いますか？
妊娠・出産に関して	⑥ 将来自分の子どもが欲しいと考えていますか？ <補助質問> ・ どうして子どもが欲しい（欲しくない）と考えていますか？ ・ 子どもを授かるときの条件のようなものはありますか？ ⑦ 妊娠すること、出産することについて、何をイメージしますか？
全体に関して	⑧ 結婚・妊娠・出産・育児の経験は、あなたの人生にとってどのような経験になると思いますか？ <補助質問> ・ なぜそう思いますか？

た（質問項目⑤）。最後に、結婚・妊娠・出産・育児に対する全体的な意識として、人生にとってどのような経験になると思うかを尋ねた（質問項目⑧）。

以上の8項目をインタビュー項目とした。補助質問は、質問項目に関して対象者の回答がなかったときやグループでの対話が活発に行われなかったときに補助的に行うものとして設定した。なお、本研究ではグループ内の自由な対話から対象者の意識が引き出されることを期待したため、一問一答の形式で順次回答を求めるような構造化されたインタビューではなく、半構造化インタビューのように基本的にはグループの対話の流れに沿うような形でインタビューを進めた。

#### 4. 分析の手順

分析はFGIの手順に則り、一次分析、二次分析、三次分析と順次進めた。まず一次分析で、

録音していたインタビュー内容をすべて書き起こし、わかりにくい表現等を加筆修正して逐語録を作成した。二次分析では、グループごとに逐語録を概観し、その中から重要と思われる発言を重要アイテムとして抽出した。さらに、グループごとに抽出された重要アイテムを概観し、類似するものを重要カテゴリーとして分類し、表題を付けた。そして、三次分析として、8グループの結果を比較検討し、「性別」「年齢」「恋人の有無」の3つを軸に、大学生における結婚・妊娠・出産・育児に対する意識の特徴を明らかにした。

### Ⅲ. 結果と考察

#### 1. グループ別の結果

下記、グループ別の結果を示す。なお、文中に出てくる表は巻末に掲載している。

(1) 男子学生・大学1年生・恋人なし

男子学生・大学1年生・恋人なしグループの結果を表3に示す。カテゴリー数は、『結婚について』で2つ、『子育てについて』で4つ、『妊娠・出産について』で2つであった。

結婚について、「パートナーの条件」では、ずっと一緒にいたいと思える好きな人（回答例1）という意見が多く見られた。その他に、受けとめてくれる人（回答例2）、容姿は気にしない（回答例3）といった具体的なパートナーの条件があげられた。「家事は助け合いたい」では、女性が仕事をして男性が家事・育児を担うことへの柔軟な考え（回答例4）や、女性と男性で家事の分担を固定的にしないこと（回答例5）があがった。

子育てについて、「スポーツをさせたい」では、回答例にあるように何らかのスポーツをさせたいという思いがあった。「経済的安定」では、子どもに苦勞をかけないぐらいの経済的安定が必要という意見（回答例8）が多かった。「不安」では、回答例9のように乳児期の子どもへの対応が不安という意見が見られた。「子育てに積極的に参加したい」では、母親だけに子育ての負担をかけるのではなく、父親として子育てに関わる意識の高さがうかがえた（回答例10, 11）。

妊娠・出産について、「大変そう・怖い」では、妻が大変であることを考えている意見（回答例12）があった。「名付けへの関心」では、出産後に子どもに名前を付ける方法について意見があった（回答例14）。

## （2）男子学生・大学1年生・恋人あり

男子学生・大学1年生・恋人ありグループの結果を表4に示す。カテゴリー数は、『結婚について』で6つ、『子育てについて』で4つ、『妊娠・出産について』で3つであった。

結婚について、まず多かった回答は「子どもの想像」で回答例1にあるように、パートナーと二人での生活よりも子どもを含めた生活をイメージするという意見が多かった。一方、パートナーに関して、「パートナーの条件」において、一緒にいて落ち着く人がいいといった意見が見られた（回答例3）。また「パートナー

との関係を重視」において、子どもが生まれる前の二人の時間を大切にしたいという意見があった（回答例4）。家事分担に関しては、「家事は任せたい」という伝統的な性別役割分業に基づく考え（回答例5）と「家事は助け合いたい」というパートナーの職業状況に合わせて対応する考え（回答例7）に二分された。「経済的安定」は、経済的な条件が整ってから結婚するという内容であった。

子育てについて、「スポーツをさせたい」では、自身の経験してきたスポーツを子どもと一緒にしたいという意見が多かった（回答例10）。「理想の子育て」では、こんな子になってほしいという具体的なイメージが多く語られた。「一緒に遊びたい」では、小学生以降の子どもを想定しており、乳幼児期の子どもと関わるイメージは出なかった。それに合わせるように、「乳幼児期は母親が必要」では、子どもが育つまでは母親が中心に関わらなければならないという意識が強いことがうかがえた（回答例15）。

妊娠・出産について、「パートナーの支えになりたい」では、妊娠・出産時にパートナーを支えることを積極的に行いたいという意見があった（回答例17）。「責任感が必要」では、自身が子育てに責任をとれるようになったうえでの妊娠・出産を考えていることがうかがえた。「ワークライフバランス」では、上記の「パートナーの支えになりたい」「責任感が必要」と関連するように、仕事による経済的責任を果たす（回答例21）一方で、休みが取れるような生活ができるようになるという条件（回答例22）があげられた。

## （3）男子学生・大学4年生・恋人なし

男子学生・大学4年生・恋人なしグループの結果を表5に示す。カテゴリー数は、『結婚について』で4つ、『子育てについて』で3つ、『妊娠・出産について』で2つであった。

結婚について、多かったのがパートナーに関する言及であり、話し合いや会話ができる人がいい（回答1, 2）といった「パートナーの条件」とともに、好きな人とずっと仲良くいたい（回答3, 4）という「パートナーとの関係を重

視」した内容が語られた。「家事は助け合いたい」では、お互いに助け合えることが理想であり(回答例5)、自分も料理など出来ることはしてあげたい(回答例6)という意見があった。「周囲からのプレッシャー」では、周りや世間からのプレッシャーがあるために結婚に踏み切るかもしれないという意見が多かった(回答例7, 8)。

子育てについて、「理想の子育て」では、理想とする子育ての方針について様々な意見があげられ、子育てに対して前向きに関わっていくイメージを持っていた(回答例9, 10, 11)。「責任感が必要」では、覚悟を持って妻と子どもを守っていこうという意識(回答例12, 13)がうかがえたが、その一方で「育てる自信がない」というネガティブな意見もあった。

妊娠・出産について、「イメージがわからない」では、妊娠・出産は苦しいものだという漠然としたイメージはあるものの女性に任せるしかないという意見が多かった。「適齢期での出産」では、パートナーの年齢を気にする発言があり、特に、ダウン症のように子どもが障害を抱えることに対する不安から高齢出産は避けたいという意見(回答例18)などがあつた。

#### (4) 男子学生・大学4年生・恋人あり

男子学生・大学4年生・恋人ありグループの結果を表6に示す。カテゴリ数は『結婚について』が5つ、『子育てについて』が4つ、『妊娠・出産について』が2つである。

結婚について、「子どもの想像」では、子どもが欲しい(回答例1)、相手は誰でもよい(回答例2)という意見が見られ、結婚においてはパートナーよりも子どもをイメージする傾向があつた。「家事は任せたい」では、家に帰るとご飯があるといい(回答例3)、家事はして欲しい(回答例4)というように、家のことはパートナーに任せる意見があつた。「経済的安定」では、結婚前の経済的安定(回答例5)と結婚後の経済的安定を考えていた。「結婚は我慢と忍耐」では、結婚後の我慢する生活をイメージしていた(回答例7, 8)。「働く糧になる」では、家庭ができることで仕事に取り組む姿勢が変わ

ることがうかがえた(回答例9)。

子育てについて、「スポーツ・習い事をさせたい」では、自分のやっていたスポーツや習い事をさせたいという意見があつた(回答例10, 11)。「経済的安定・勤務地の安定」では、経済的な余裕が必要であるという意見(回答例13)だけでなく、勤務地についても言及された(回答例14)。「楽しそう」では、子育てに対してポジティブなイメージがあることがうかがえた。「孫、子孫が欲しい」では、名前を残したいという意見(回答例19)があつた。

妊娠・出産について、「パートナーの支えになりたい」では、妊娠中のことを考えて禁煙するという意見(回答例20)や妊娠に対してのサポートを考えて実行していきたいという意見(回答例21)があつた。「授かり婚への抵抗」では、結婚前の妊娠を避けたいという意識がうかがえた(回答例22, 23)。

#### (5) 女子学生・大学1年生・恋人なし

女子学生・大学1年生・恋人なしグループの結果を表7に示す。カテゴリ数は、『結婚について』で3つ、『子育てについて』で4つ、『妊娠・出産について』で2つであつた。

結婚について、「家事は共に行う」では、家事を自分だけが担うことに否定的な意見でパートナーと協力していきたいという回答(回答例1, 2)があげられた。「一人であることが寂しい」では、老後や死に際、病気になったときに一人であることは寂しいという回答(回答例3, 4)が見られた。「価値観が変わる」では、結婚して家族ができることによって価値観が変わるのではないかと感じているようであつた。

子育てについて、「習い事をさせたい」では、ピアノなど子どもにさせたい習い事について意見があげられた(回答例7)。「自分の親に預けられる環境」では、子育ての先輩である自分の親に頼りたいという回答(回答例9)が多く見られた。「ワークライフバランス」では、経済的な面を考えると仕事は続けなければならないが、子どもとしっかり関わる時間を大切にしたいという意見(回答例10, 11)が多くあつた。

「しつけへの不安」では、子どもの叱り方（回答例12）など、しつけへの不安が語られた。

妊娠・出産について、「大変だけど幸せ」では、出産は痛みを伴い、大変そうなイメージがあるという意見がある一方で、出産によって幸せを感じられるという意見（回答例13）が見られた。「成長できそう」では、妊娠・出産の経験を通して、自身の成長や変化を感じられるのではないかという回答（回答例14）が多く見られた。

#### （6）女子学生・大学1年生・恋人あり

女子学生・大学1年生・恋人ありグループの結果を表8に示す。カテゴリ数は、『結婚について』で3つ、『子育てについて』で3つ、『妊娠・出産について』で1つであった。

結婚について、「子どもの想像」では、結婚は子どもを作るためにするものであり、結婚と妊娠・出産は同時期にあるというイメージの回答が多く見られた（回答例1, 2）。「パートナーは不要」では、結婚をしてもパートナーとの愛情は早々に消えるという見通し（回答例3）や、子どもがいなかったら結婚生活の継続は難しいと考えていることがわかった（回答例4）。「親を安心させたい」では、自身の親に孫の顔を見せたいという回答（回答例5）や、パートナーとのことよりも自身の親を心配させないために結婚をするというような回答が多く見られた（回答例6）。

子育てについて、「自分の親に預けられる環境」では、姑には頼りたくないため、自分の親に預けたいという回答が多かった（回答例7, 8）。「パートナーは、経済力と家族サービス」では、パートナーの収入が大切であること（回答例9）が語られた。また、たまに家族サービスをしてほしいという回答が多かった（回答例10）。「イメージは他者から」では、街で家族を見かけた時（回答例11）や友達に子どもができた時（回答例12）に子育てを意識するという意見が多くあった。

妊娠・出産については、「勇気がいりそう」の一つだけがカテゴリとして分類され、妊娠・出産には覚悟があることを漠然と感じていることがうかがえた（回答例13）。

#### （7）女子学生・大学4年生・恋人なし

女子学生・大学4年生・恋人なしグループの結果を表9に示す。カテゴリ数は、『結婚について』で3つ、『子育てについて』で3つ、『妊娠・出産について』で2つであった。

結婚について、「子どもの想像」では、パートナーとの二人での結婚生活よりも子どもがいる生活を想像する意見（回答例1）が見られた。「父親が理想」では、父親が結婚相手として理想という意見（回答例2）が見られた。「家族形態の多様さ」では、事実婚（回答例3）やシングルマザー（回答例4）といった現代の家族形態の多様さについて言及する意見が見られた。

子育てについて、「習い事をさせたい」では、習字やピアノのようなさせたい習い事の具体例があげられた。「自分の親に預けられる環境」では、子育ての際には自分の親を頼るため地元に戻るという意見（回答例6）があった。「ワークライフバランス」では、仕事との両立に関する意見（回答例7, 8）が多く見られた。

妊娠・出産について、「イメージがわからない」では、身近に妊娠中の人がないため、具体的にイメージできないという意見（回答例10）が見られた。しかしながら、「苦労が多い」では、妊娠中の体調管理（回答例11）を大変と思う一方、大変な中でも幸せがあるのではないかと（回答例12）といったポジティブな側面も言及された。

#### （8）女子学生・大学4年生・恋人あり

女子学生・大学4年生・恋人ありグループの結果を表10に示す。カテゴリ数は、『結婚について』で3つ、『子育てについて』で2つ、『妊娠・出産について』で1つであった。

結婚について、「パートナーの条件」では、一緒に老後を楽しめる人（回答例1）や子どもが好きな人（回答例2）といった具体的な条件があげられた。「家事は共に行う」では、共働きを前提にパートナーと対等に家事分担をしたいという意見（回答例3, 4）が多く見られた。「両親の影響」では、父親に対するイメージに影響を受けていることが語られた（回答

例5, 6)。

子育てについて、「自分の親に預けられる環境」では、自分の親が子育てをサポートしてくれることを想定する回答が見られた(回答例7, 8)。「ワークライフバランス」では、タイミングをみて子どもを授かりたいという意識が強くなるか(回答例9, 10)。

妊娠・出産については、「苦勞が多い」の1つのみがカテゴリーとして分類された。いずれも出産時の苦勞が具体的に話され、出産時の痛み、流産や難産に対する不安、出生前診断などが意識されていることがわかった。

## 2. グループ間の比較

全グループのカテゴリーを比較した結果(表11)から考察を述べる。

### (1) 結婚について

全体で41名中3名が結婚したくない、しなくてもいいという意見であり、9割以上の対象者は将来的な結婚に意欲的であった。内閣府「結婚・家族形成に関する調査報告書(2011年)」によると、未婚者の86.0%が将来結婚したいと回答しており、本調査ではそれを上回った。大学生の段階では、まだ就労状況や経済的不安の影響が少ないためと推察される。

パートナーの条件は、男子学生では3グループが具体的な話をしたものの、女子学生では1グループしかなかった。さらに、男子学生では2グループで「パートナーとの関係を重視」があがったが、女子学生には見られず、「パートナーは不要」というグループもあった。

内閣府「結婚・家族形成に関する調査報告書(2011年)」によると、結婚の決め手となった条件・結婚相手に求める条件においては、男女とも「性格」が9割以上で最も多かった。しかし、本調査では、男子学生からはパートナーの性格に対する言及があがったが、女子学生からは少なかった。他方、女子学生では、「家事は共に行う」が2グループで見られた。国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向調査 結婚と出産に関する全国調査独身者調査(2010年)」によると、結婚相手に求める条件として「家事・

育児の能力」は、男女ともに2000年に比べて顕著に増加しているという。このことから、女子学生ではパートナーに求めることとして、性格的なことよりも実利的な側面が語られたことが考えられる。それに対して、男子学生では、「家事は助け合いたい」と3グループが回答しており、女子学生の期待に答える結果がみられた。しかし、恋人ありグループの回答に限れば、大学1年生で「家事は助け合いたい」と「家事は任せたい」で分かれており、大学4年生では、「家事は任せたい」になっている。本調査で「男子学生・大学4年生・恋人あり」で参加した5名はいずれも同一の恋人と2年以上の交際をしていた。つまり、男子学生は「家事は助け合う」のが理想と考えてはいるものの、女性との交際を経て、自身の家事に対する未熟さを実感し、女性に任せるとする考えを持つようになることが推察される。

また、女子学生では「一人であることが寂しい」(恋人なし・大学1年生)、「親を安心させたい」(恋人あり・大学1年生)が見られるが、男子学生では見られなかった。この結果は、結婚したい理由として、「老後に一人でいたくない」、「両親や親戚を安心させたい」が男性よりも女性のほうが高い(内閣府「結婚・家族形成に関する調査報告書(2011年)」)という先行調査と一致しており、本調査の女子学生にもその傾向が見られたといえよう。他方、男子学生では「経済的安定」が恋人ありの2グループで見られた。これについても、結婚生活を送っていく上で男性が最も不安に思っていることとして、「経済的に十分な生活ができるかどうか」が先行調査で指摘されており(内閣府「結婚・家族形成に関する調査報告書(2011年)」)、特に恋人がいる男子学生では経済的な安定への意識が強いことがうかがえた。

結婚のイメージに関する質問に対して、「子どもの想像」が男子学生、女子学生ともに2グループずつ見られた。国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向調査 結婚と出産に関する全国調査独身者調査(2010年)」によると、結婚年齢にこだわる未婚者(ある程度の年齢ま

では結婚するつもり)が以前よりも増えて過半数を超えたことが報告されている。また、内閣府「結婚・家族形成に関する調査報告書(2011年)」では、「今、恋人が欲しいと思わない理由」について、「恋愛が面倒」「異性に興味がない」の割合は、女性のほうが男性よりも高かった。パートナーと二人の時間を過ごすよりもすぐ子どもが欲しいという結果は、女子学生において強い傾向が認められることが示唆された。

## (2) 子育てについて

女子学生で2つの共通項があった。まず、「自分の親に預けられる環境」であり、全グループが言及した。次に、「ワークライフバランス」であり、3グループが該当した。この2つは仕事と子育てという面で密接に関連していると思われる。

国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向調査 結婚と出産に関する全国調査独身者調査(2010年)」によると、女性が希望するライフコースについて、専業主婦コースが減り、両立コースが拡大している。また男性がパートナーに望むライフコースも、専業主婦コースに代わって両立コースが増大している。したがって、働きながら子育てをする状況において、女性は「自分の親に預けられる環境」があり、なおかつ子どものために少しでも「ワークライフバランス」を追求したいと判断していることが考えられる。本調査においても、それが強く裏付けられる結果となった。

子育ての内容について、男子学生のほうでは、「理想の子育て」の категорияが2グループで見られ、子育ての方針や理想の子ども像が語られた。しかし、これらの回答内容からは、小学校以上の子どもを想定していることが読みとれた。女子学生においては、子どもが乳幼児期のことを想定して「自分の親に預けられる環境」や「ワークライフバランス」のことを考えていた。子育てと聞いたときのイメージは男女で異なるといえよう。

子どもとのかかわりについては、男子学生はスポーツ、女子学生は習い事をさせることを望んでいることがわかった。これはいずれも自身

が子どもの頃に経験したことを子どもにも経験させたいと考えているものであった。国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向調査 結婚と出産に関する全国調査独身者調査(2010年)」によると、子どもの性別について、以前は家の跡継ぎということもあって男女とも男の子を望む傾向が強かったものの、近年の未婚男女はそれぞれと同性の子どもをより多く望む形になっていることが指摘されている。本調査においても、子育てを考える際に自身と同性の子どもをイメージしていたことが推察される。

## (3) 妊娠・出産について

カテゴリー数が、結婚・子育てに比べて少なく、妊娠・出産に対してあまり多くのイメージを持っていないことがわかった。加えて、女子学生・恋人なし・1年生でのみ「大変だけど幸せ」「成長できそう」というポジティブな側面が見られたが、全体的に「苦労が多い」「大変そう」などのネガティブなイメージが多かった。とりわけ女子学生・4年生の2グループでは「苦労が多い」の категорияが共通しており、妊娠・出産の具体的な苦労話として、妊娠から出産に至るまでに起こる心身の変化に不安を感じることが多く語られたのは、他のグループと異なる特徴であった。女性は年齢を重ねるに連れて、自身の母親や友人などから妊娠・出産の話聞く機会が多くなり、近い将来に訪れる自身のこととして実感するようになると考えられる。

## IV. おわりに

全体的に、男子学生も女子学生も恋人ありのグループは、現在の恋人を想定して話を進める参加者が多かったため、結婚、子育てのことについて具体的に話が進んだ。一方、恋人なしのグループでは、自身の経験よりも両親をモデルに結婚や子育てに対するイメージの影響を受けていた。

経済的な安定はすべてのグループが必要と考えているものの、大学1年生と大学4年生では話の内容が異なっていた。大学4年生のグループでは、たびたび就職活動のことが話題になっ



ており、就職活動が仕事と人生を具体的に考える最初のきっかけであることがわかった。男子学生・恋人あり・4年生のカテゴリの中に「働く糧になる」「勤務地の安定」があるように、雇用状況を強く意識して、結婚・妊娠・出産・育児に対する考えが変容することが推察される。内閣府「結婚・家族形成に関する調査報告書（2011年）」においても、恋人のいる男女に結婚しない理由を尋ねた結果、「結婚後の生活資金が足りないと思うから」「結婚資金が足りないから」が比較的高いように、結婚をする決断に経済的な安定が欠かせないことが本調査でも明らかになった。

結婚と経済との関連について、山田（2012）は、「夫は仕事、妻は家事・育児で、豊かな生活を目指す」という戦後家族モデルからの脱却を求め、アメリカや北西ヨーロッパと同様に、①男女共同参画を推進し、女性に経済的に活躍できる場を用意すること、②社会保障や雇用制度を再構成し、人々が安心して消費を行えるような環境整備、を指摘する。これは、皆がお金を稼ぎやすいシステムを作ることによって、家族の形成が促され、各家族の消費が増え、経済が上昇するというモデルを描いている。

一方、内田（2013）は、結婚の基本目的は「生き延びるチャンスを高めること」とし、安全保障としての結婚を説く。つまり、お金がなくて貧しい状態で、かつ行政や地域共同体はセーフティネットとして当てにできない。だからこそ、相互扶助ができるネットワークを構築するために結婚するという。結婚式の誓いの言葉にあるように、「病めるとき」「悲しみのとき」「貧しいとき」こそ、結婚してよかったと実感する。ここで、パートナーを探すときの基準となるのは「その人と一緒にいる方が、一人でいるより生き延びるチャンスが高まるかどうか」である。

前者は「お金をしっかり稼いで、誰かと結婚したい」を想定し、後者は「お金をしっかり稼げなくても、どうにかやっていける誰かと結婚したい」を想定している。このように複数の視点から、結婚・妊娠・出産・育児をライフコー

スの一端として考えられるようにすることも必要であろう。

最後に、本調査は先行の量的調査と照らし合わせたとはいえ、サンプルが少ないうえに地方の国立大学法人の大学生を対象としているというところで一般化できる結果ではない。本調査で導かれた仮説は、今後の量的調査等による検証を待たなければならないことを付記しておく。

#### 引用文献

- <sup>1</sup> 独立行政法人国立青少年教育振興機構（2009）これから親となる若者の就労観、結婚観、子育て観に関する調査研究。http://www.niye.go.jp/kenkyu\_houkoku/contents/detail/i/52（2015年4月21日確認）
- <sup>2</sup> 国立社会保障・人口問題研究所（2010）第14回出生動向調査 結婚と出産に関する全国調査独身者調査。http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou14\_s/doukou14\_s.asp（2015年4月21日確認）
- <sup>3</sup> 内閣府（2011）結婚・家族形成に関する調査報告書。http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa22/marriage\_family/mokuji\_pdf.html（2015年4月21日確認）
- <sup>4</sup> 内田樹（2013）悩める人、いらっしゃい！ 凱風館主、内田樹の「はかばか相談室」第14回。GO JAPAN.
- <sup>5</sup> 山田昌弘（2012）第5章 将来の家族の姿と日本経済：家族の消費需要は回復するのか。140-160.山田昌弘・塚崎公義（2012）家族の衰退が招く未来：「将来の安心」と「経済成長」は取り戻せるか。東洋経済新報社。

#### 謝辞

本研究にご協力いただいた大学生の皆様、また分析の補助をしてくださった大元詩織さん、白澤彩香さん、西邑翼さん、平田大祐さんにここに記して感謝申し上げます。

#### 付記

本研究は、香川県健康福祉部子育て支援課による平成26年度地域少子化対策強化交付金の助成を受けて行われた研究成果の一部である。

表3 男子学生・大学1年生・恋人なしのカテゴリーと回答例

	カテゴリー名	回答例
結婚	パートナーの条件	1. 僕はなんかずっと付き合っと思って、ずっと一緒におっても幸せっていう気持ちはずっと続いたら結婚してもいいかなって思います。 2. 受けとめてくれる人がいいです。 3. 雰囲気ですかね、一緒におって苦しくなかったらいいですし、別に容姿とか考えません。
	家事は助け合いたい	4. 基本妻の方が家庭で夫の方が仕事っていうのもありだと思いますし、逆に妻が仕事したいっていうなら、仕事して、で自分の方が育児メインにしてやるっていうのもありだと思います。 5. 父、母で分けたりせずに手が空いてるほうがしたりとか、ある程度最初は分けるけど、これじゃいかんのだったらそこを変えていって。今日はどっちするっていうのもいいし。
子育て	スポーツをさせたい	6. 息子に野球して欲しい。 7. 自分の家にバスケットゴールつけて（させたい）。
	経済的安定	8. 子どもに苦勞をかけられんぐらいの経済力があってちゃんと、子どものこと理解してあげるぐらい心が広がらないと子ども欲しいとは思わなくなって。
	不安	9. 下の方（の年齢の子ども）になってくると何を言っているかも分かんし、ほんまにイライラしてしまうこともあって、そういうところがまだ自分の気持ちが大人じゃないなって。そうなるって、子どもは欲しくないなってなってしまいます。
	子育てに積極的に参加したい	10. 関わっていくべきだと思います。やっぱり親が子どもに与える影響って大きいし、それやったら大いに影響を与えたいなど。 11. そもそも奥さんのやることじゃないと思う。奥さんの負担というか、奥さんのやることを助けてあげないと思うだけだな。
妊娠・出産	大変そう・怖い	12. 妻が一番大変とは思いますが。一番辛いのは妻。
	名付けへの関心	13. 出産したら名前決めたいですね。 14. おじいちゃんに決めてもらうっていうのもありやな。

表4 男子学生・大学1年生・恋人ありのカテゴリーと回答例

	カテゴリー名	回答例
結婚	子どもの想像	1. 結婚姿を考えたら、もう自然に子どもの姿が浮かぶんです。
	パートナーの条件	2. 仕事とかってめっちゃ気使うじゃないですか、で帰ってきたらもう「はあ」みたいな、全部言えるみたいなのがいいですね。 3. 一緒におって落ち着く人がほんまに好きなんですよ。
	パートナーとの関係を重視	4. ちょっとの間は二人でいたいというか、何年かしてから子ども作ってって感じがいいですね。なんか子どもができれば終わってしまいそう、楽しいのが。
	家事は任せたい	5. 昔からの考えなんですけど、女は家において男は外で稼ぐっていう考えがあって。 6. 家事とかはやってるイメージはない、自分が。
	家事は助け合いたい	7. もし奥さんのほうが稼ぎとかが多かったら、でなんかもう俺が仕事せんでもいい感じになったら、俺が家で家事してもいいかなと思ってて。
	経済的安定	8. 仕事が決まってある程度貯金ができたら。 9. 僕は結婚するのは責任が取れるようになってからとか、お金が貯まってからって自分は思ってるんで。
子育て	スポーツをさせたい	10. 野球をしてたんで、男の子生まれたら野球させたいんで、一緒に練習する姿とか（をイメージする）。女子は女子で、その時にしたいことをさしたげて、一緒に練習とかしたいなって感じ。
	理想の子育て	11. こんな子に育てて、こんな子になって欲しいみたいな、そういう願望がめっちゃある。 12. ほんま優しい子になって欲しくて、ほんまに気が使える子になって欲しいです。
	一緒に遊びたい	13. 子どもとやっぱ遊びたいです、自分の子どもと遊びたいです。 14. 自分がお父さんになったら、公園とかでキャッチボールとか。
妊娠・出産	乳幼児期は母親が必要	15. 子どもが自分でいろいろちゃんとできるようになるまでは（母親には）家に絶対に欲しいです 16. 子どもができれば家にはいて欲しいし、就職したとしても自分より長く働く仕事だったら反対します。家に帰った時にやっぱり家にいて欲しい。
	パートナーの支えになりたい	17. 産んだる時に自分は正直別になんもできないんですけど、普通に、例えばめっちゃ強い力で握ったりして、協力したいです。 18. （出産に）立ち会いたい。
	責任感が必要	19. 責任がやっぱり重いんで。 20. 妊娠は人生を変えるんで、お互いの。
	ワークライフバランス	21. ちゃんと子どもが養える、安定した時期に入ってから妊娠というか、それまではまあ我慢。 22. 一番理想なのは、安定して休み取れる時。休み取れるような安定さ。

表5 男子学生・大学4年生・恋人なしのカテゴリーと回答例

	カテゴリー名	回答例
結婚	パートナーの条件	1. 話し合いをちゃんとしてくれる人が僕はいいです。 2. とりあえず会話を成り立たせてくれる人がいいですね。
	パートナーとの関係を重視	3. ずっと仲良しってのに憧れる。 4. 自分の好きな人がおって、その人と結婚したらずっと一緒におれるし、心がなんか満ち足りるじゃないかっていうイメージ。
	家事は助け合いたい	5. 本来的には男が稼いで女が家事なのかなってのはあれですけど、お互いに仕事してて、お互い助け合えばそれが一番理想ですけど。 6. お互い気づいてなんか大変そうだったら手伝ってあげるし、普段から家事を2人でやるっていうような僕も家事はなるだけ自分が出来るのはやってあげたいって思いますね。特に、料理好きなんで料理は作ってあげたい。
	周囲からのプレッシャー	7. 周りがいうじゃん。まだ結婚できないのとか。 8. 1人でおりたい人はそれで幸せなんかもしれんけど、世間的にはなんか言われる。
子育て	理想の子育て	9. これが駄目、あれが駄目っていうのはしたくないです。 10. 幼稚園児とかになったときは外で遊ばす。 11. 自尊心高めるように育てたいなって。
	責任感が必要	12. 子どもができることによって、妻と子どもを守っていかないとけないっていう責任感が強まる。 13. 覚悟はもってしないと、親として一応出産子育てまでいくのであれば。
	育てる自信がない	14. 育てる自信がない。
妊娠・出産	イメージがわからない	15. とりあえず苦しいやろうなっていうのはある。 16. 大変やなとは思いつつ頑張ってもらわなきゃいけないです。自分はもうただ出来ることをするしかないです。
	適齢期での出産	17. 出来るだけ適齢に時期に子どもが出来ればなって思う。 18. 高齢出産やと嫌やな、ダウン症とかどうしようとか。

表6 男子学生・大学4年生・恋人ありのカテゴリーと回答例

	カテゴリー名	回答例
結婚	子どもの想像	1. 子どもと自分みたいな（イメージ） 2. 相手とかは考えん。
	家事は任せたい	3. 家に帰ってご飯があるのがいいなあ。 4. 家事はやってもらいたい。
	経済的安定	5. 収入が安定して（から結婚したい）。 6. お金がないときつい。
	結婚は我慢と忍耐	7. 我慢っていうイメージが（ある）。 8. 地元で子どもいる人たちとか見ても子どもがいたら「ごめん、ちょっと夜出られないわ」みたいな感じが多いんで、我慢やなって思います。
	働く糧になる	9. 守るものがあつたときに、上司に嫌なことを言われても「はい、わかりました」ってスムーズにできそうですね。
子育て	スポーツ・習い事をさせたい	10. 自分のやってたスポーツを体験、体験っていうか子どもにさせたい。 11. 水泳と硬筆は（させたい）。 12. 楽器でも何でもええ、好きなことに熱中させしてくれたい。
	経済的安定・勤務地の安定	13. 金銭的な余裕がないと無理やね。 14. 勤務地安定させたいです。 15. 子ども小っちゃいのに、単身赴任とか萎えるなあ。
	楽しそう	16. 子育てより遊んどるイメージだけやな。 17. いいとこしか想像してないです。
	孫・子孫が欲しい	18. 子孫に継がせたいなあ。 19. 名前を残していきたいとかっていう。
妊娠・出産	パートナーの支えになりたい	20. 子どもできたら禁煙を考えるかもなあ。絶対に吸わん。 21. 周りから情報を仕入れて、あーこんな風にしてたんだみたいなことを聞いたら、自分もそれを実行したり（したい）。
	授かり婚への抵抗	22. でき婚は嫌やな、ちゃんと結婚して。 23. そんなめでたいことなのに相手の親になあ、謝りに行くとか。

表7 女子学生・大学1年生・恋人なしのカテゴリーと回答例

	カテゴリー名	回答例
結婚	家事は共に行う	1. あんまり、きっちり（役割を）分けたくないなどは思って。 2. 家事とか、協力して手伝ってくれる人がいい。
	一人であることが寂しい	3. 結婚しないと死に際に寂しいなあって思う。 4. 病気がしたときとかに、看病してくれる人が欲しい。
	価値観が変わる	5. 今結婚願望ゼロやから、多分結婚したら価値観がこうゴロっと変わると思う。 6. 結婚とか、なんかその家族を作るのって、自分で作るもんだからなんかすごい。
子育て	習い事をさせたい	7. 女の子が生まれたら絶対ピアノはさせたいな。 8. 習い事は考える。
	自分の親に預けられる環境	9. 頼りたいというか、やっぱりお祖父ちゃんお祖母ちゃんの方が子育て、自分の親っていうことは子育て、そんだけ自分のことやって、知識もあるから、やっぱり近くにいて欲しいな。
	ワークライフバランス	10. (子どもと)できるだけ一緒にいてあげたいから、そういうことができる環境、そう、経済力もだし、なんかその、自分の仕事面とかでも、そういう融通が。 11. 経済面考えたら、自分、働いた方が、でも子どもに寂しい思いさせたくないし。
	しつけへの不安	12. 叱り方分からなくて、もし自分に子どもできてもなんか上手い育て方とかか褒め続けたらいいのかなんか、叱れるか(分からない)。
妊娠・出産	大変だけど幸せ	13. 出産とか痛くて大変だと思うけど、いざ目の前に自分の子どもがいたら、もうそれだけで、うわー、幸せになれるんだらうなって思う。日々の成長とか見て、いいなって思う。やっぱり子どもができとったらすごく幸せそう。
	成長できそう	14. 妊娠とか出産とかは嬉しいことでもあるし、子育てってなったら自分自身もなんか成長できるのかなって。

表8 女子学生・大学1年生・恋人ありのカテゴリーと回答例

	カテゴリー名	回答例
結婚	子どもの想像	1. 結婚したいというか子どもが欲しいと思った。 2. イコールやけん、結婚と出産は。イコール、子ども出来ること、結婚って子ども作るため(にするもの)。
	パートナーは不要	3. 愛とか結構早々に消えると思う。 4. 子どもがおらんかったら離婚しそうなくらいやね。
	親を安心させたい	5. やっぱり親には孫の顔とか見せないかんかなっていうのはちょっとあります。見せてあげれば、やっぱ、それも親孝行の1つかなとか思ったりしますけど。 6. 多分自分が結婚するってなったら、親のこと考えて結婚しそうな気がします。
子育て	自分の親に預けられる環境	7. 母親とかに預けたい、姑さんとかに預けるのは自分とのやり方がやっぱ違うから、不安だから自分の母親に預けたい。 8. 姑、嫌やなあ。
	父親の役割は経済力と家族サービス	9. 自分は、結局子ども産んだらこの仕事辞めるな辞めるなって思いながら産まなきゃいけないし、まあ戻れるところ少ないし、まあ辞めた後でも働けるところあるけど、だけん自分の収入じゃなくて旦那の収入かなって…。 10. たまに家族を楽しませることを、するべきだと思う。
	イメージは他者から	11. 街で家族を見たとき(に自分が子育てをしている姿を想像する)。 12. 友達がもう子どもできたとか。
妊娠・出産	勇気がいりそう	13. 妊娠、出産ってなるとめっちゃ勇気いるかなっていう気がする。全く違うことが始まる感じがする。人生の中で経験したことないし、結構大変やし、そんなの絶対めっちゃ考えないといかん。

表9 女子学生・大学4年生・恋人なしのカテゴリーと回答例

	カテゴリー名	回答例
結婚	子どもの想像	1. 子どもを含めた家族の想像はするけど、旦那と二人の生活してるときの想像ってあんまりしたことないなって思った、今。
	父親が理想	2. 好みがお父さんに寄るみたいな感じのかな。お父さんがなんかこう、だんだん理想の男性っていうか、好きになっていく人がだんだんお父さんに似てくるっていうか。ない？なんか私すごい、眼鏡の人が好きで、お父さんも眼鏡なんやけど、でちょっとなんか地味そうな人なんよ。ちょっと嫌なだけかな。
	家族形態の多様さ	3. 最近結婚せずに、なんか一緒に同棲する形の〈事実婚〉もあるよな。だから、法的な縛りがない自由な人は法律が邪魔なんじゃない？結婚するのに。 4. 一人で育てるのは厳しいもんね。シングルマザーとかどうなんだろう。
子育て	習い事をさせたい	5. 将来的に役に立つことが多かったりするから習字とかさせたいし、女の子やったらピアノもさせたいし。やりたいことはできるだけやらせたいな。やらせたいっていうか子どもに任せる。好きなことやっていいよ、みたいな。
	自分の親に預けられる環境	6. 初期の段階っていうか生まれてから1年とかは親に頼って育てるだろうなって。そのために私は地元に戻るんですよ。そのためにっていうか、子育ての時に親に近くにおって欲しいから地元に戻るんですよ。特に私双子やから、おばあちゃんおらんと育てられなかったって言ってたし。
	ワークライフバランス	7. 仕事によるじゃないけど、公務員になれたら続けたい。だって、子育てはしやすい環境っていうし。うん。続けられるな。将来子どもが大学行くまでってなったらすごいお金かかるし、続けたい。 8. 子どもが生まれたらやめるかもしれん。就職先が昼の1時から10時が勤務時間で、正社員だと厳しいからパートにしてみたらどうか、違うところで働くかだから。
妊娠・出産	イメージがわからない	9. あまりイメージがわからない。 10. 今、妊娠中の人とか、友達とかにも全然おらんから想像がしにくい。
	苦労が多い	11. 妊娠中って、高い所から飛んじゃいけないとか体を冷やしちゃいけないとか、食べ過ぎて太り過ぎててもいけないし、痩せすぎててもいけないし、本当に体調管理が大変なんだっていうのを思うけん、やっぱり妊娠は大変そう。出産も痛そう。 12. 大変そうやなーっていうのもあるけど、いやでも結構さ、なんやろ、うーん、えらいとか辛いとか言いつつ産んでくれるから、大丈夫なんかなくて自分の時も。なんとか耐えられるんやろうなって。めっちゃ客観的やけど。

表10 女子学生・大学4年生・恋人ありのカテゴリーと回答例

	カテゴリー名	回答例
結婚	パートナーの条件	1. 老後を楽しめるかなっていう人前提で。一緒に老後過ごせるならこの人かなっていう感じです。 2. 子ども好きよね。子どもが好きでないと一緒に子育てできないから。
	家事は共に行う	3. 洗濯物をたたむのは好きなんだけど干すのが嫌だから、干してくれるとか、ほんとに半々(がいい)。 4. 料理とかも毎日するのは嫌だな。なんか当たり前のように女の人ができるみたいな雰囲気させられるのが嫌で。帰るのが早かった方が取り掛かるみたいなのが理想かな。で、料理するんやったら洗濯はやるわ、とか。昔のイメージの女の人がやるみたいなのは絶対にやめて欲しいなって思う。
	両親の影響	5. 私、両親の関係みたいになりたくないけど、結婚願望はある。なんかこんなダメな人と結婚しちゃダメだなんていう。反面教師じゃないけど。 6. お父さんみたいな感じの近い人、堅実だし、実はしっかりしてるけどあんまり前に出てこないみたいな、そういうのに憧れてうちは逆にお父さんくらいな人と結婚したいなって思う。
子育て	自分の親に預けられる環境	7. 自分の家族が子育てとか手伝ってくれるんかなって思うかな。 8. なんかお母さん呼べばいいかなってずっと思ってた。
	ワークライフバランス	9. タイミングは、まず自分の仕事で2年間は働きたい。最初に。ある程度職場を理解してから、でまあきつと相手は何年か働いていると仮定してお互い仕事に慣れた頃、育休とってもいいですよって現実的に考えれるときに、授かるっていうよりもタイミングを考えて作りたいなって思う。 10. 私もタイミングはやっぱり仕事、お互いの仕事が落ち着いたときとか、自分もし職場復帰するとなったときにキャリアアップに影響がないんじゃないかなってタイミングで。計画的に欲しいかな。
妊娠・出産	苦労が多い	11. 自分が妊娠しとっても絶対産む直前まで痛そう痛そうって絶対思ってると思う。陣痛始める前から絶対思ってる。 12. うちの母さんね、陣痛25時間だったらしくって。生まれるまで。もうそんなの堪え切れるのかって。 13. (流産した人が身近にいると) ゼーっと気つかうんだなーって。十月十日？ゼーっと気つかうんだなって。 14. (出生前診断を) 旦那さんにもししてって言われたらすごい複雑な気持ちになると思うし。彼氏とも話したことあって喧嘩になったことがある。

表11 全グループのカテゴリ-比較表

項目	男子学生				女子学生			
	1年		4年		1年		4年	
	恋人なし	恋人あり	恋人なし	恋人あり	恋人なし	恋人あり	恋人なし	恋人あり
結婚	家事は助け合いたい	家事は助け合いたい	家事は助け合いたい		家事は共に行う			家事は共に行う
		子どもの想像		子どもの想像		子どもの想像	子どもの想像	
	パートナーの条件	パートナーの条件	パートナーの条件					パートナーの条件
		経済的安定		経済的安定				
		パートナーとの関係を重視	パートナーとの関係を重視					
		家事は任せたい		家事は任せたい				
			周囲からのプレッシャー	働く糧になる	一人であることが寂しい	パートナーは不要	父親が理想	
				結婚は我慢と忍耐	価値観が変わる	親を安心させたい	家族形態の多様さ	両親の影響
育児					自分の親に預けられる環境	自分の親に預けられる環境	自分の親に預けられる環境	自分の親に預けられる環境
	スポーツをさせたい	スポーツをさせたい		スポーツ・習い事をさせたい	習い事をさせたい		習い事をさせたい	
					ワークライフバランス		ワークライフバランス	ワークライフバランス
	経済的安定			経済的安定・勤務地の安定		父親の役割は経済力と家族サービス		
		理想の子育て	理想の子育て					
	不安	一緒に遊びたい	責任感が必要	楽しそう	しつけへの不安	イメージは他者から		
	子育てに積極的に参加したい	乳幼児期は母親が必要	育てる自信がない	孫・子孫が欲しい				
妊娠・出産							苦勞が多い	苦勞が多い
							イメージがわからない	
		パートナーの支えになりたい		パートナーの支えになりたい				
	大変そう・怖い	責任感が必要	適齢期での出産	授かり婚への抵抗	大変だけど幸せ	勇気がいりそう		
	名付けへの関心	ワークライフバランス			成長できそう			